本校では毎週金曜日に、「ＰＴＡ通信」というお便りが発行されています。表面は主に行事予定や諸連絡、学校からのお願い等が掲載されています。裏面は教員が輪番で思い思いの文章をつづっており、年に一回は必ずお役が回ってくる仕組みになっています。

このＰＴＡ通信は印刷物として金曜ごとに子どもたちに配布されるのとは別に、本校の保護者専用のホームページで閲覧することも可能です。十一月十二日発行のＰＴＡ通信の表面に、たまたま空きスペースができたため、私が文章を書くことになりました。

通常の学校生活が行われていると、表面に空きスペースができるという事はまずありません。このコロナ禍の中、行事の中止が相次ぎ、行事予定や諸連絡が割愛されるという事が日常茶飯事となり、表面の空いたスペースに「埋め草」の文章を書くという仕事が、新たに教頭先生にのしかかることになってしまいました。これがなかなか、大変なのです。

多忙な教頭先生に倒れられては困ります。今回は時期的にちょうどよいので、十一月の十九・二十日に開催される、学習発表会・ミニ運動会・クラス別ＰＴＡ・校内作品展についてのメッセージを書く仕事を私が引き受けたという訳です。それが、こちらの文章です。

～・～・～・～・～・～・～・～・～・～

来週の金曜・土曜と、学習発表会・ミニ運動会・クラス別ＰＴＡ・校内作品展が催されます。

一日に四つのイベントが組み込まれた、何とも盛りだくさんな会ですが、来校される方々の人流を少しでも抑制するために、このような方策をとりました。

ハーフターム・ホリデー前は、三十分授業でしたので、学習発表会の準備や校内作品展の作品の制作に、十分な時間がとれていた訳ではありません。それなのに今回の会を開催したのには理由があります。

コロナ禍のために行事や集団で集まることが制限され、全員が一つのことに向かってやり抜く場、友達の良い所を認め合える場が極端に減りました。学校にとって、教師にとって、まさに危機的状況と言っても過言ではありません。それを打破するために、今回このような会を企画しました。

教科横断的な要素を取り入れた学習発表で、子どもたちが考え、活動、発表できること。オンライン上ではなくて、ナマの人間と一緒にいると、色々起こるけれど、うれしいし、楽しいという実感ができること。自分にはない力を持つ友達とチームになる力、やり抜く力を育てること。

今回の催しは、このような場を提供するための企画であって、決して、きれいに、上手にまとまった結果をお見せするための催しではありませんと、前もってお断りさせていただきます。

ある学年では、ミニ運動会の飾りつけや道具の出し入れを教師主導型ではなく、子どもたちの担当にしたところ、子どもたちが自ら進んで、喜々として準備に励んでいるそうです。ミニ運動会が時間通りに進まなかったり、スマートに事が運ばなかったりといったことも起こりうるでしょう。

それでも子どもたちが色々な制約の中で、自ら創意工夫し、行動している様子をご覧いただき、どうぞたくさんのご声援を送っていただければ幸いです。

―「心で見なくちゃ、ものごとはよく見えないってことさ。かんじんなことは、目に見えないんだよ。」サン・テグジュペリ『星の王子さま』より―

～・～・～・～・～・～・～・～・～・～

十九・二十日にご来校いただいた保護者の方々の、子どもたちを「心」で見ようとなさる慈愛に満ちた目と、子どもたちの生き生きとした表情がとても印象的な二日間でした。

（立教小学校校長　田代　正行）